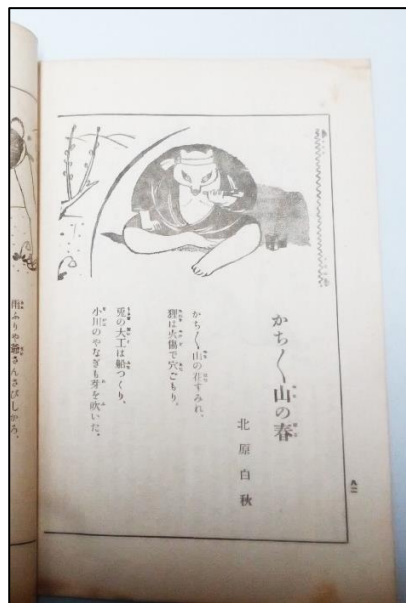


群馬県立文書館 教材活用史料詳細カード 31

請求番号	P8413	文書番号	173	年代	大正 11 年 4 月 1 日発行 (1922 年)
史料名	赤い鳥 第 8 巻第 4 号 (4 月号)				
形態	縦	複製	あり	・なし ()	
備考	寄贈の古文書 (佐鳥英雄氏収集文書) 同文書群には、同史料の他、「少年世界」や「少女世界」、「少年倶楽部」など、点数は少ないが大正期の出版物あり。				
史料概要	大正期は、都市の発展や知識人の増加、教育の広がり等を背景に、活字文化も発展していった。「赤い鳥」はそのような社会の動きの中で、第一次世界大戦後の大正 7 年 (1918) に子どものための文学雑誌として鈴木三重吉により創刊された。 「赤い鳥」は、子どもたちのために芸術として価値のある童話や童謡を創作するという考えの基に刊行され、文学性の高い内容が特徴的である。 大正 11 年発行の同史料は、目を引く清水良雄の表紙絵や鈴木三重吉の童話、北原白秋の童謡などが掲載されており、大正期の大衆文化の発展を読み取ることができる。				
指導要領 (内容)と の関連	<中 歴> C-(1)-ア-(オ) 文化の大衆化 <高歴総> C-(2)-ア-(イ) 大衆社会の形成				
活 用 例					
活用単元	第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現 (新しい文化と生活)				
活用場面	・人々の生活様式や意識の変化、雑誌などの大衆文化の普及を読み取る史料として、導入場面で活用。				
活用方法	・都市の発展や知識人の増加、教育の広がり等を背景に、新聞や週刊誌、月刊誌などの発行が進むなど、活字文化が広がりを見せたことがわかる史料 (刊行物) である。文化の大衆化に大きな役割を果たした「童謡や童話を取りあげた子ども向け」雑誌の発行について読み取ることができる。特徴的な内容や挿絵に着目させることで、「大正時代の新しい文化と生活」の導入として活用を図ることができる。				
予想される 生徒児童の 反応など	・生徒の目を引く表紙や、特徴的な挿絵、童謡、童話を提示することで、当時の文化やその広がりに対する興味関心を高めることができると考えられる。著名な執筆者の文学作品を、図書室で探すなどの活動の広がりも期待できると考えられる。				

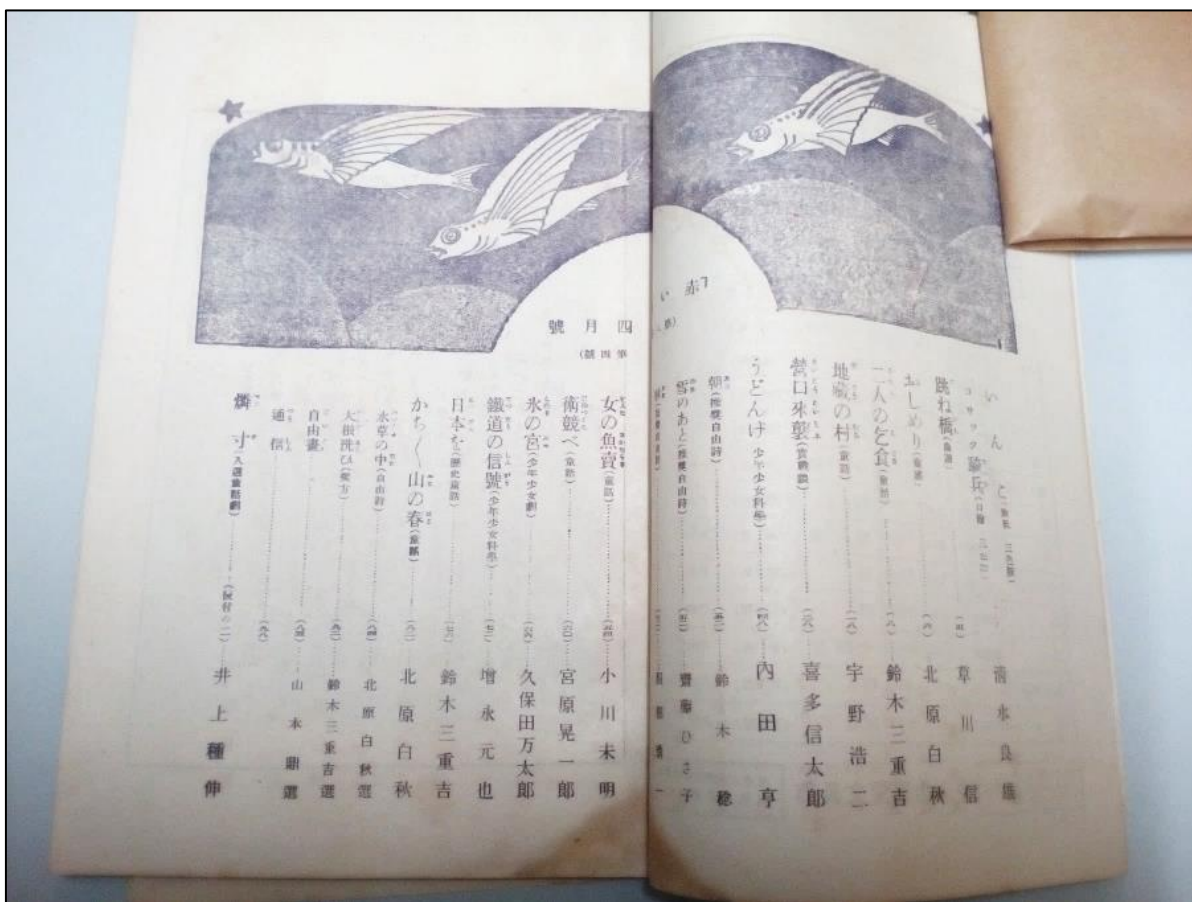
赤い鳥 (P8413 173) 大正 11 年



かちく山の春
北原白秋

かちく山の春
北原白秋

かちく山の春
北原白秋



四月 號
(號四第)

- 女の魚賣 (童話) 小川未明
- 筒鏡へ (童話) 宮原晃一郎
- 氷の宮 (少年少女小説) 久保田万太郎
- 鐵道の信號 (少年少女小説) 増永元也
- 日本をこよひ (童話) 鈴木三重吉
- かちく山の春 (童話) 北原白秋
- 水の中 (自由詩) 北原白秋
- 大掛渡 (童話) 鈴木三重吉
- 自由詩 山本鼎
- 通標 井上種伸
- 燐寸 (童話) 井上種伸